

第116回

火山噴火予知連絡会資料

2010年6月16日

東北大学大学院理学研究科

2001年ころから継続している傾斜・歪変動傾向が、今期も続いている。

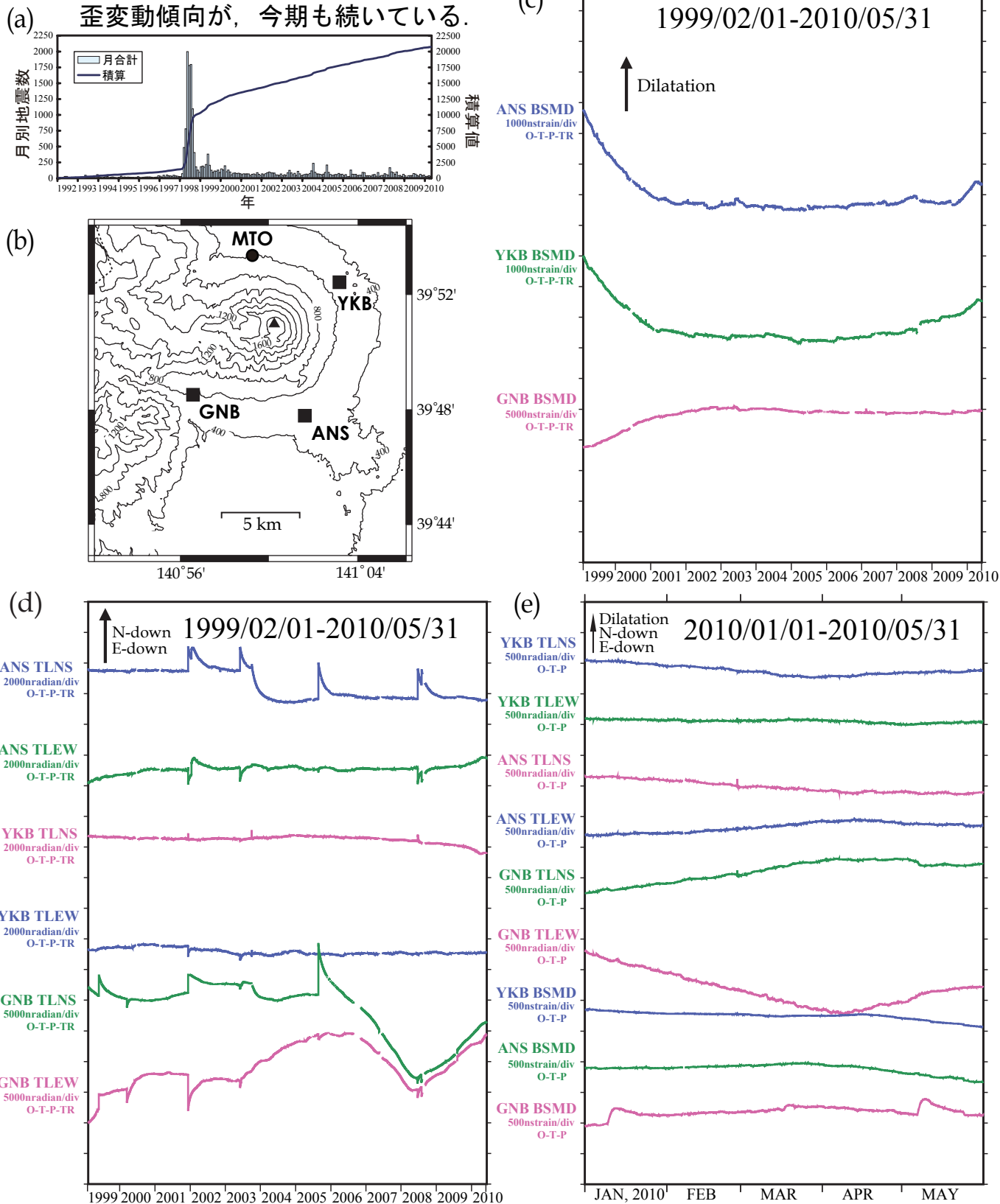


図 1. 岩手山周辺における歪・傾斜変動連続記録. (a) 月別地震数の変化(1992年4月～2010年4月), (b) 観測点配置, (c) 1999年2月1日～2010年5月31日における歪変動, (d) 傾斜変動, (e) 2010年1月1日～2010年5月31日の歪・傾斜変動. BSMD: 体積歪, TLNS: 傾斜南北成分, TLEW: 傾斜東西成分. (c), (d)は潮汐・気圧・トレンド補正済. (e)は潮汐・気圧のみ補正済. トビをとまなう変動は有感地震の影響あるいは雨の影響. 地形図の作成には国土地理院発行の数値地図を使用した.

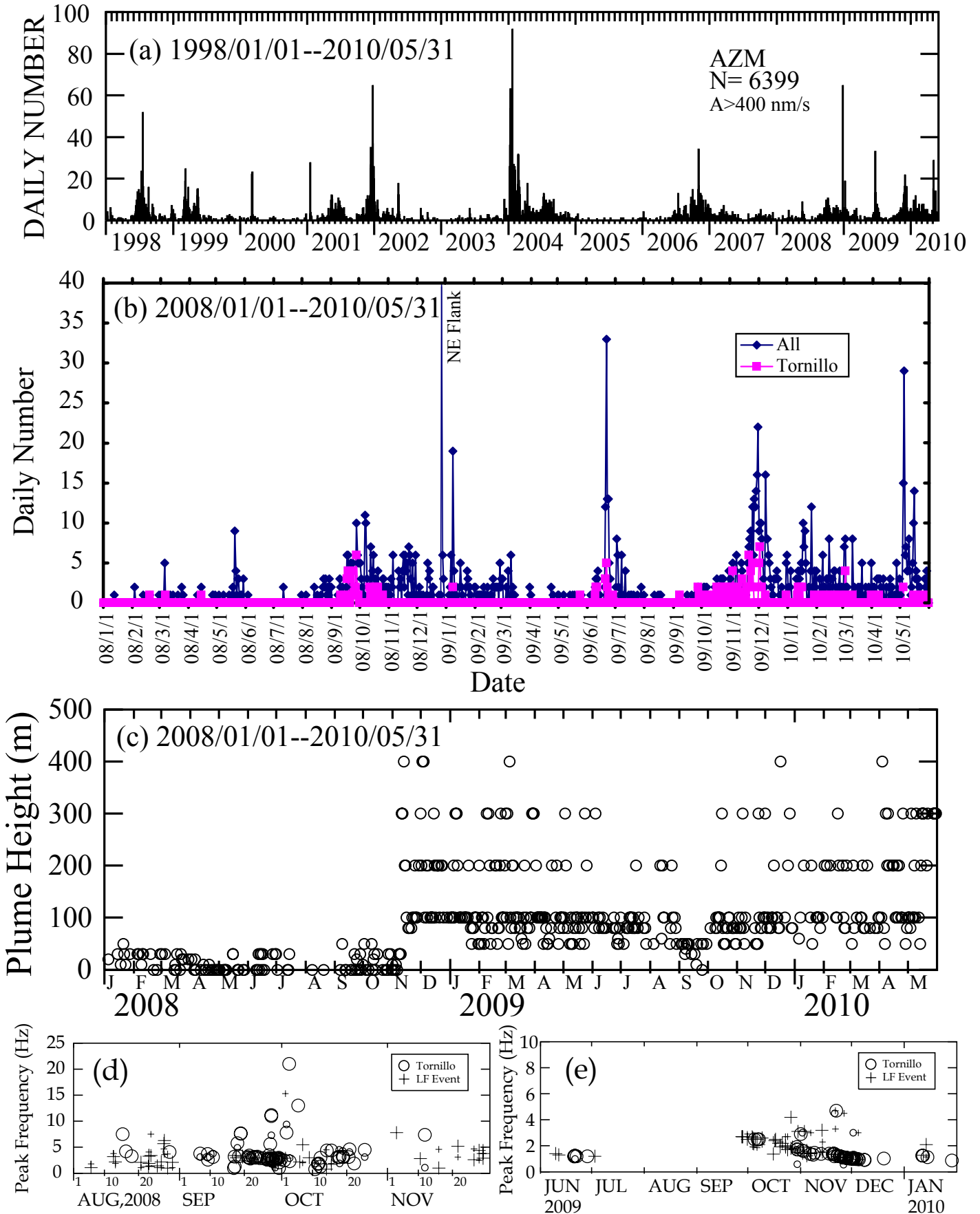


図1. (a) 吾妻火山地域における群発地震活動(1998年1月~2010年5月), (b) 最近(2008年1月1日~2010年5月31日)の地震活動の推移, (c) 同期間における日別最高噴気高の時間変化. (d) 2008年8月~2008年11月, (e) 2009年6月~2010年1月に発生した低周波地震の卓越周波数の時間変化. 噴気活動活発化の前後で“Tornillo”の活動が活発化した. 2008年11月の新噴気出現の前には卓越周波数が異なる多様な“Tornillo”が発生した.

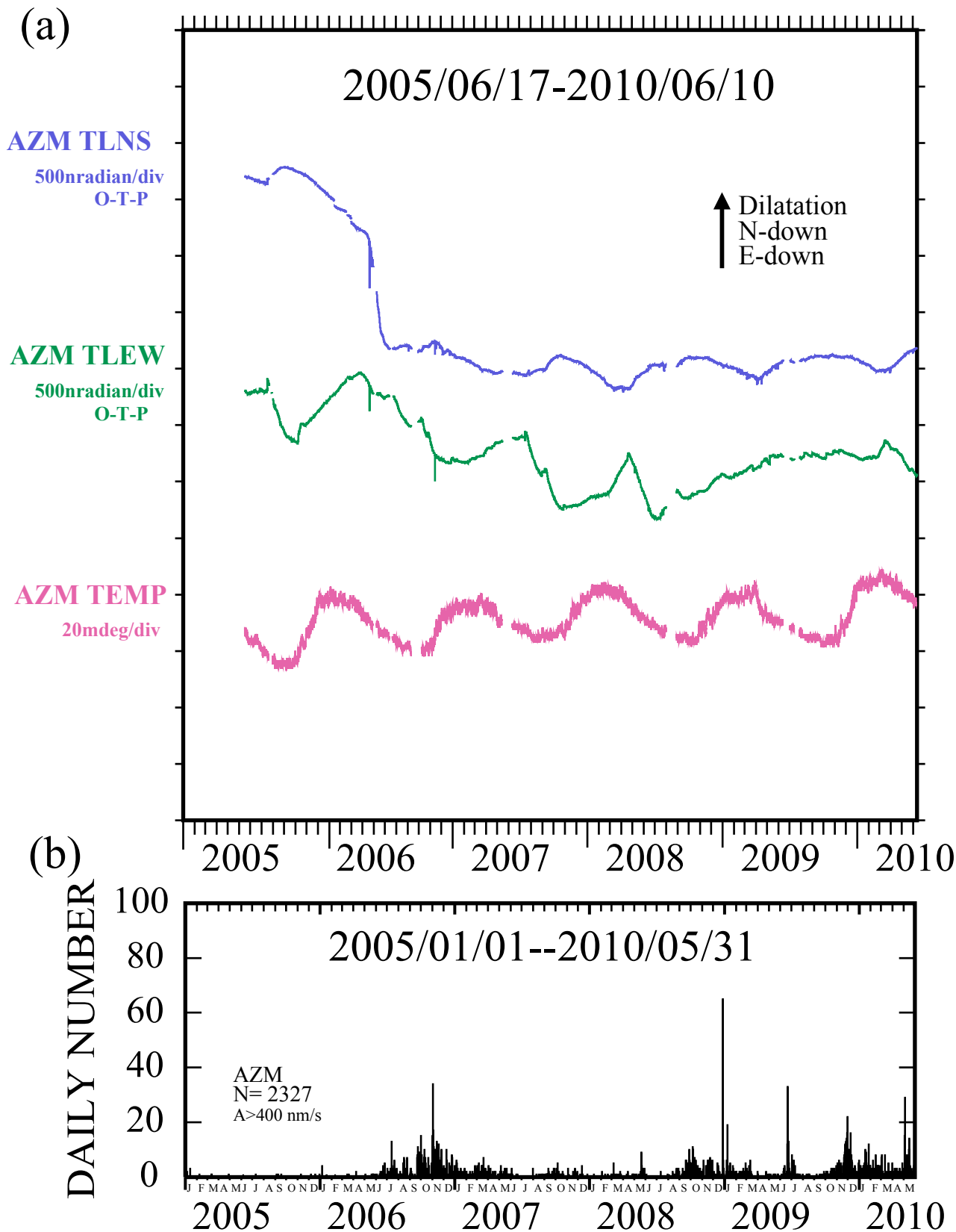


図2. (a) 吾妻火山観測点(AZM)における傾斜変動(2005年6月17日~2010年6月10日), ならびに, (b) 吾妻火山地域に発生した地震の日別頻度(2005年1月1日~2010年5月31日). TLNS, TLEW は, それぞれ, 地球潮汐と気圧応答を補正済みの傾斜変動NS成分, EW成分. 地震活動に対応した傾斜変動が存在する可能性があるが, 明瞭ではない.